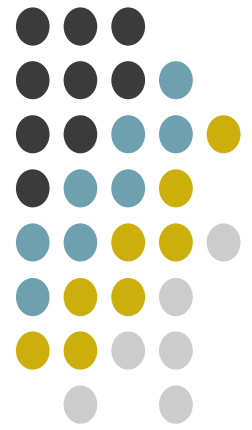




フェローシップ・ニュース No.128



新年あけましておめでとうございます

皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

NPO法人アパリは、2000年の設立当初から
刑事司法手続の各段階にいる薬物事犯者の人たちを
支援するための司法サポート事業を行っています
あつという間でしたがおかげさまで25年経過しました
日本の刑事司法制度は、令和7年6月1日に施行される

改正刑法で、その日以降の犯罪行為に対して
改善更生を目的とした拘禁刑が導入されるなど

近年さまざまな改正が行われていますが

そうした新しい制度に即応した先進的な

司法サポート事業をこれからも続けていく所存です

皆様のご支援を、今後ともよろしくお願い申し上げます

令和7年 元旦

理事長 尾田 真言



特定非営利活動法人
アジア太平洋地域
アディクション研究所

発行日
2025年1月1日

APARIとは、アジア太平洋地域アディクション研究所 (Asia-Pacific Addiction Research Institute)の略称です。

全国のDARCやMAC等の社会復帰施設、福祉・教育・医療・司法機関と連携しながら、依存症から回復しようとする方々を支援しているシンクタンクです。

目次：

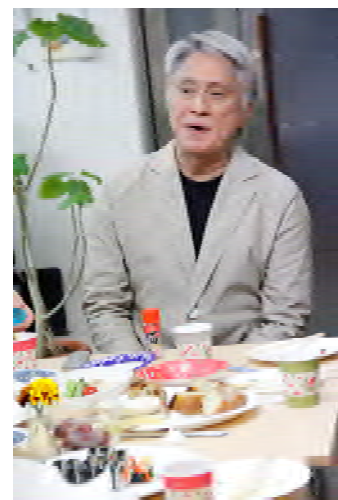
新年のご挨拶…尾田真言	1
クリスマス会 ゲストのお話…山本大	2
コラム 心のつぶやき日記(9)…野呂岳央	4
支援につなげる弁護術(27)…高橋洋平 No.127の訂正	5
藤岡ダルク入寮者からのメッセージ…ジョン 嗜癮行動家族教室のご案内	6
司法サポートのご案内 家族教室スケジュール	8

アパリ家族教室 クリスマス会 ゲストのお話 (12/16)

藤岡ダルク 代表 山本大

クリスマス会のゲストの山本さんに、家族からの質問に答えていただきました。(一部抜粋)

家族A) 私たち夫婦は家族教室に参加して、他の家族や弁護士などからいろいろ習ったのですが、息子の姉と妹のことです。姉妹と最近、久々に会って話す機会があった時に、本人とは普通にしていましたが、あとで私が娘たちに聞いたところ、「私たちが現在一生懸命幸せに毎日暮らしているからといって、過去に兄、弟からされた大変なホラー映画のような生活が強いられていたことは決して忘れることはない。いつも心の中や頭に引っかかっている思い出そうと思えば一から全部を思い出せる。」と言われた。それをあえて押し殺して日々の生活で頑張って生活して楽しいことも生きがいもあった。だけど親が我慢してるからといって、これからもずっと我慢していなさいとも言えず、姉妹たちがどのようにそれを消化していったらいいのか。もしできることならば、息子の方からあの時は悪かったという謝罪の気持ちとか、そういうものを要求することはできるのか、娘たちにどう声をかけたらいいのか？



山本) 僕たちは自助グループで12ステップのプログラムをやっていて、その12ステップのプログラムの中ではステップ8、その埋め合わせをする気持ちになったというところで、埋め合わせをする人たちのリストを書いていくのです。そしてステップ9で、機会あるたびに埋め合わせをするのですが、この8、9では、1234567ときちんと順番を踏んでいった上で埋め合わせというのがあるので、彼もスポンサーがいて、多分、その中でステップワークを行っているだろうと僕は思っています。しかしそのスポンサーとのステップワークの中できつと、8にかかる頃には姉妹に対しても埋め合わせというのが本人の中で芽生えていけば、自然とそういう流れになっていくのではないかと考えています。

ただ、この埋め合わせというのは、自分のエゴを通すステップではないのです。やはり相手の気持ちも考えつつ、きちんとタイミングを見計らって埋め合わせをしていかないと、逆にそれは傷口を広げてしまうことになってしまいます。そこはすごく慎重に行っていくステップであると思うので、1,2,3というステップをやっていく中で、次に棚卸しをして、それをスポンサーに話して、自分の短所や長所を見極めた上でやっていくことなので、まだもう少しそこには時間がかかるのではないのでしょうか？

私から言えることは、もう少し待っていなさいってことです。でもそれは彼がステップワークをやっているというのが前提です。自助グループに通ってスポンサーを持ってきちんとステップワークはやってもらいたいなと私たちも願っています。

家族B) 私は今、息子とは何年も会ってないんですけども、今、特にこちらの方からアプローチして会いたいとは全然思っていないんですけども、家族との距離感というのは、今、私はこのままで本人も安定している状態なので、このままで全然いいと思っているのですが、これってどこかで距離を縮める時期ってというのは来るのですか？ それともそれはもうしないで、お互いの道を行くということでしょうか？

山本) 家族との関係というのは、やはり切っても切れないわけですから、これも12ステップを踏んでいく中で彼が家族に思うことも多分いろいろ出てくると思います。今こうやって施設にいて距離がありますけれど、この距離というのも、ただ離れているだけじゃなくて、お互いが考える時間にとって、とても必要な時間だと思えます。彼も彼なりに自分の回復のことだったり、自分が迷惑かけた人のことであったり、やはりこの施設にいて、多分いろんなことを考えていたと思います。これから彼自身が次のステップに移行するにあたって、家族の再構築っていうのは絶対どこかでは必要なことだと思っています。とりあえず今は自然に任せましょう。



山本) 僕たちはセルフアセスメントを行っています。これは生活面であったり、プログラム、コミュニケーションの部分、自分の感情の部分、7項目プラス自分の依存症の問題について、どういうふうに捉えているかということ、入寮してから3ヶ月で始めます。生活面が最初からできる人もいます。できている人は半年後から始めますけれども、生活面で睡眠がうまく取れてないとか、お薬を飲めてないとか、そういう人たちは3ヶ月目から始めます。その項目としては、生活面だと定期的に食事を取れているか、入浴ができているか、服用しているお薬を飲めているか、それをAができている、Bはややできている、Cはあまりできていない、Dができていない。あえて普通というのはいれないようにしています。日本人はみんな普通って入れがちなので。それを自分でチェックしてもらいます。自分でできているのかをチェックしてもらった上で、同じ項目を僕たちもアセスメントしていきます。本人もできていない。僕たちからもできていないという場合には同意ができているので、それほど大きな問題はないのですが、一番僕らが注目しているのは、そのギャップの部分。本人はできていると思うけれど、スタッフから見るとできていない。そこには反発がいつも起きるわけです。君はできていると思うけど、僕らはできていないと思う。そこにはなんでそういう食い違いが起きているんだろう。そういうことを抽出していった面談を通して何でそうなのかということをお話していきます。できていない部分だったらどういうふうに改善していこうかというプランニングを立てていきます。そのプランニングというのは、本人ができるようなプランニングを1ヶ月もしくは3ヶ月、もう少し長期的なものも考えつつ、プラス最終的に本人が目指すゴール、例えば薬をやめて仕事をしたいとか、家に帰って生活したいとか、そういうことでもよいです。その自分が設定したゴールに向けて施設にいる間に支援計画を立てて、そのプランニングに沿って何ができるかということをやっていきます。

ここで一番重要視しているのはスタッフを通して面談を頻繁に行っていくことです。うちの施設は人数も多いし、一つの箱で生活していて、よく言えばいつでも話す機会があるのですが、悪く言えばいつでも話せると思うから、すれ違いが起きることも多々あります。そんな中でなかなか自分に関わってもらえないと拗ねる人もいます。そういった面談を通してスタッフがきちんとあなたに関わっていますよ、という姿勢を見せることも大事だと思っています。次のステップに行く指標としてセルフアセスメントをしています。

家族C) 次のステップに移ってまた何かで失敗した場合はどうなりますか？

山本) 失敗というのは常にあると思います。失敗したから前のステージに戻るということではなく、失敗の仕方というのもあると思います。次につながる失敗もある。何回も薬を使用したというのは別のケースになりますが、ダルクの施設で失敗することは全然いいと思うのです。だからその失敗に寄り添っていくというのが僕たちスタッフでもあるし、その失敗を基にやっぱり次に良い方向にいかせられるよう肩押ししてあげるのが僕らの役割なのかなと思います。だから失敗はいっぱいしてもいいと思います。

横田顧問) 全部に通じる良い話だなと思って聞いていました。できれば現状と課題を聞きたいです。

山本) うちの施設は現在53名の方が入寮しています。うち27名が薬物の方、18名がアルコールの方、8名の方がギャンブル依存で入っています。やはり、薬物の相談が激減しています。覚醒剤で逮捕される人は近年すごく激減しているのもあるし、時代なのかギャンブルの相談というのがすごく増えてきています。

こういう人たちと一緒にしたら最初は違い探しをするのです。俺はアルコールで薬物の人みたいなのとは違うとか、俺はギャンブルだから、薬物の人とは違うということが最初は起きます。しかしある程度の期間を過ごすと、そういうことは不思議となくなっていく。やはり僕たちの依存症という問題の根幹は、生きづらさであったりとか、薬物使用、アルコール使用、ギャンブルのことも問題ですけど、それ以外の部分もすごく大きいので、根っことしては結局同じところにあると思っています。意外とミックスになっていても、生活してるうちにそこまで変わりはないと感じています。

ただ、課題としては人数がたくさんいて、新しいプロジェクトとして新しいグループホーム、それから北軽井沢にも新しい施設、東京にも新しい施設が同時進行しているので、来年度中にはそういった人たちも分散して多少は解消されていくかな、というふうに思います。

また、いろいろ新しいプロジェクトが進んでいく中で、いろんな今までとは違う支援の窓口もより広がっていく可能性もあるので、一つ一つの施設がうまくいくようになってもらいたいし、新しいプロジェクトにおいて雇用の窓口も広がっていくので、そうやって依存症から回復した人たちが、依存症に関わる仕事というのが広がっていくこともすごくいいことだと思ってます。

今やっている仕事は本当に人ありきの仕事なので、スタッフをいかに育てていくのかが本当に大きな鍵となっています。今後はそこも今までと同じようにスタッフの育成には力を入れてやっていきたいと思っています。

Willのコラム

心のつぶやき日記 (9)

施設長 野呂 岳央 (タケ)

就労継続支援B型
事業所 Will
新規利用者
新規作業
大々的に募集中!!

先日、ある中学校の薬物乱用防止教室の講師として呼ばれて伺ってきました。
そこでは違法薬物の話もさながら、市販薬乱用の実態、そしてなぜあなたたちのような若い
子たちが薬物乱用を始めるのか、どうすればそれを防げるのかという話などをしてきました。

その中学校の周りには大きなマンションがたくさんあり、ここら一帯の子供達はおおむね小
学校の時から中学受験に向けて皆勉強をしてきた子たちが多いようです。そしてその中です
でに大きな挫折を味わい、自己肯定感をなくして内面苦しんでるであろう子供たちも多いと聞き
ました。

子供時代は、自分の世界も狭い、それがだんだん広がっていく。自立していかなければなら
ない、一人で頑張っていかなければならない。大人にとって深刻ではない問題であっても、彼
らにとっては人生の一大事、初めてぶつかる超難題です。方程式なんて通用しません。

今は不登校になってしまう子も多い中、そんな子たちがたまに別教室に来て集まったりもす
るそうです。当日も、別の場所からオンラインでつないで聞いてくれていたようでした。

依存症になる人たちは、子供時代、様々な苦しい体験、自分では変えられない生きづらさ、
それらを認識できないまま訳もわからずに味わってきた人たちがたくさんいます。

中学生の子たちと会って、まさにこの時期、様々な生きづらさを抱えていく子供たちがいる
んだろうな…、まだまだ人生始まったばかりなのに、自分がわからず、希望を失い、不安だら
けでそれを誰にも言えず隠している子たち、何かにすがり頼りながら「うまく伝えられない、
周りから共感を得られない、そんな苦しさ絶望」を生き抜く子たちが多くいるんだろうな、
と感じました。

そんな子たちへの希望のメッセージになればいいなと思い、結構踏み込んだ話をしてくいま
した。比較的長い話だったにも関わらず、多くの子供たちは集中して聞いてくれていたよう
で、同席していた先生方が驚いた様子でした。

私自身、今になって、自分の子供時代からの表現しようのなかった生きづらさを発見できま
すが、随分時間がかかりました。自分の奥底にあった本当の感情や気持ち、自分のこころの
声に耳を傾けることをしてこなかったため、目を向けても苦しくなるだけだとどこかで感じて
いたので、いつの間にか自分のこころの声が聞こえない大人になっていたように思います。

依存症、また依存症ではなくても医薬品などを乱用したり、引きこもったり、自傷行為をし
たり…、その背景にあるものを無視しては薬物乱用防止教育なんてできません。

私たちは、薬物などの危険性をただ単に訴えるだけでなく、その背後にあるものに目を向け
ながら若い人たちに話をしていく必要があると感じました。

皆さんも、自分の奥底にあるこころの声に耳を傾ける、表現する、よかったら心がけて試し
てみてください。普段やっていないと聞こえなくなりますよ。

そのうえで、自分が本当に必要としていること、例えば、気持ちを聞いてもらうこと、そ
とそばにいてもらうこと、認めてもらうこと、思い切り泣くこと…、それを自分に与えてあげ
てください。

本年の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。



川崎ダルクフォーラム
の会場にて
Willの作品を展示販売
しました!!
たくさんの方にお買い
上げいただき
感謝申し上げます♡



ニュースレターの
発送作業の様子



川崎ダルクフォーラムの後
の打ち上げの様子

コラム

支援につなげる弁護術 (27)

理事・嘱託研究員・弁護士 高橋 洋平

新年あけましておめでとうございます。新しい年をいかがお迎えでしょうか。

昨年も多くの方々にお世話になり本当にありがとうございました。本年も「今日一日」の精神で、ひとつひとつの実践を大切にして、薬物問題を含む様々な依存症の問題に積極的に取り組んでいきたいと思っています。

特に力を入れていきたいことに「出会い」があります。全国のダルクを訪れ、たくさんの仲間たちに出会うことはもちろん、家族会にも顔を出して、たくさんの家族にも出会っていききたいと思っています。そして、笑顔でつながるネットワークの構築を実現できたらと希望しています。

アパリもダルクも時代にマッチしたプロジェクトを担い、日々実践しています。私もその力になるべく尽力していきたいです。

重要なトピックとしては、昨年の12月12日から「麻薬及び向精神薬取締法」の改正法が施行され、大麻の所持だけでなく、使用も禁止されることになりました。今のところ、大々的な摘発はなく、静かなスタートという印象ですが、今後、大麻に関する話題も増えていくものと思われます。また、最近では、違法な薬物ではなく、市販薬や処方薬の乱用も大きな問題になっています。これまでの薬物政策の抜本的な改革が急務になっているように感じますが、ご本人やご家族におかれては、まずは、信頼できる支援者に出会ってほしいと願っています。ネット情報に惑わされず、正しい情報を入手してほしいからです。

本年も、不本意にも事件になりそうであったり、事件になったりして、辛い気持ちでいる本人や家族の方々と共に歩んでいくことを実践していきます。

皆さまのご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

MARCY'Sちゃんねる
マーシーズチャンネル

マーシーこと田代まさしさんがアパリやダルクの情報をYouTubeにアップしています！是非ご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=Y0wBRIfDSSM>



【No.126 訂正】「薬物事犯にかかわる最近の法改正について 詳しく解説!!」

P.3 16行目

「令和7年6月1日以降に拘禁刑の判決が言い渡された人から適用されます。」



「令和7年6月1日以降にした行為に対して適用されます。」
(刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係法律の整理等に関する法律441条1項)

P.3 27行目

「新法で保護観察付執行猶予中の人に対して再度の執行猶予が言い渡せないことは今と変わらない。」



「新法では、初犯で保護観察付執行猶予が付いた人に対しても、再度の保護観察付執行猶予を付けることができるようになった。」(新刑法25条2項)

《理由》裁判官が躊躇していた初犯者に対する保護観察付執行猶予を、初犯の時からケアが必要な人に付けやすくするためです。

藤岡ダルク 入寮者からのメッセージ

「夢の為に」

ジョン

NPO法人アパリは、群馬県藤岡市にある藤岡ダルクを運営しています。同施設の入寮者からのメッセージをお届けします！

はじめまして、依存症のジョンです。

私は今37歳で、ダルクに入寮して2年6カ月程になります。まず簡単ではありますが、生い立ちからお話しさせて頂きたいと思います。

当時の私の家族は祖母、両親、弟で、私の家は自営でしたので不自由の無い生活を送らせて貰っていたと考えます。しかし、父はアルコールとギャンブルに問題があり、特にアルコールに関する事が酷かったので断酒会に母と通っていました。時には解毒入院で何日も家を空ける事もあり、私は父が居なく淋しいと思っていた事を覚えています。

私自身はというと、幼少の頃から人の言葉を理解するのが苦手で誰かに何かを言われてもどうして良いか分からない、皆が言う事や出来る事が出来ない事で周りを酷くイライラさせていたと思いオドオドしたり、逆に頭の中で言葉を作る事が出来なかったので、思うように人に言葉を伝えられずに悲しかったり辛い事がありました。

そんな私に優しく勉強を教えてくれた父と、何とか理解しようとしてくれた母のおかげで諦める事無く努力を続けた結果、周りの子達と同じように振る舞えるようになりました。

ただ根本から変えられたという訳ではないので、出来る事の幅は少なく、逆に出来る事に夢中になり周りが見えない子だったと思います。良く言えば集中力があり1つの事をやり遂げるまで諦めない性格、悪く言えば1つの事に囚われ視野が狭くなってしまいう性格となります。それは今も変わらず、そしてこの性格が処方薬、市販薬に依存する要因となっていたように思います。

私が処方薬、市販薬に手を出したのは30歳の頃、仕事で好成績をあげる為でした。当時の私は妻と共働きで、少ない給料で妻に苦勞をかけていると思っていました。そんな私に妻はいつも「一緒に居られるだけで幸せ」と言ってくれていたのに、私は何とか妻に良い生活を送らせてやりたいと思い、妻の言葉は耳に入らず、仕事をガムシャラにやれば何とかなると思い込んでしまっていました。

仕事をする時間は次第に延びていき、反比例するように睡眠時間は減っていきました。そうして過勞状態となり限界を迎えた頃、市販薬に出会いました。

眠気を覚ます薬、オーバードーズする事で多幸感に包まれる薬、それ等を乱用した事で自然に眠る事が出来なくなったから次は眠れるようになる薬、日々の緊張感や不安感を和らげる薬。しかし常用していると効き目が無くなってくるので、もっと効果的に効かせる為に処方薬を砕いて鼻から吸引するようになり、最後にはそれら全てを常に摂取していないと体が動かなくなるといった状態になってしまいました。

そんな私を見守って居た妻が最後に言ったのは「もう貴方を支えてあげられない」でした。当時の私は、なぜそうなったのか、何が原因なのか全く分かりませんでした。ただただ妻と離婚したという現実が受け入れ難く、そしてあまりにも辛く、使う薬の頻度と量は増えました。そして、薬を買う金も無く冷静な判断が出来なくなった私は、今で言う闇バイトに手を出してしまい逮捕されました。



仲間のリアルバースデー



相模原ダルク10周年フォーラムでのエイサー演舞



ダルク対抗ソフトボール大会



ダルク対抗ソフトボール大会 優勝の胴上げ

奇跡的に執行猶予で出られ、6カ月程は薬物抜きの日を送っていましたが、知り合いの手伝いをして心理的に追い詰められまた薬物に手を出しました。そして逮捕される前よりも使用頻度と量が多くなりどうしようもなくなった時、アパリに繋がっていた母から藤岡ダルクを勧められ入寮する事になりました。

入寮したての頃の藤岡ダルクは過酷でとても辛かった事を覚えています。プログラムが辛かったのではなく、自分が生きてこれまで積み上げてきた経験や考え方、処世術が全く通用しなかったのが辛かったです。そんな中で起こる衝突や問題、その度に自分に矢印を向けるように、プログラムを使っては、という提案。私は悪くないのにどうして自分を責めねばならないのか？ なぜ私は怒られているのか？ 最初の頃はそういう風に善悪だけでしか考えられず苦しい日々が続きました。

しかし、そんな中で「自分はいざという時の選択肢が2つしかない」「もっと選択肢を増やさなければ生きづらい」という事に気づき、私は藤岡ダルクでの生活で「選択肢を増やす事」を目標にする事にしました。

そうして生活をしながら、仲間との分かち合いをしながら、提案を受けながら、一つ一つ気づき、自分の問題に取り組み、自分を変える努力をしたと思います。時には「もういいんじゃないか？」「辞めたって誰も何も言わないよ」と、思う事も多々あり、自主退寮を考える日も少なくありませんでした。しかし、私には藤岡ダルクに入寮する前から持っている夢があります。その夢を、夢だけで終わらせず希望に、希望から目標に、目標から現実に変える為、諦める訳にはいかないと考えております。

そうして一つ一つの問題に取り組み、自分自身と向き合い、変えられるモノは変えて、変えられないモノは対策や対処を考えて、自分自身を大切にする事を学ぶ事で今の私になれたと思います。

それでもまだまだ私の問題は沢山あるし、病気はいつでも出てこようとしています。だからこそ今でも「選択肢を増やす事」を忘れず、仲間と共に回復を続けようと思っています。

私が、今も諦める事無く抱き続ける自分自身の夢の為に。

ダルク対抗 ニューイヤー駅伝大会！ 2025/1/24(金)

11時に藤岡ダルクをスタートします！
片道10k 往復20kを
11のダルクが参加して
1チーム10名でタスキをつなぎます。

実況中継を見ることもできます!!



詳しくは藤岡ダルクへお問合せください。
fujiokadarc@hotmail.co.jp

第三回 オンライン家族会

『Fujioka Family Study
Group WALL』

日時：2025年2月16日(日)

時間：13:30 ~ 15:00

場所：Zoom (オンライン)

参加費：無料

講師：未定

参加ご希望の方は、パソコン・スマホ・タブレットで、QRコードを読み込み事前申し込みを行ってください。

※申し込み締め切り 2月9日(日)

お問い合わせ：藤岡ダルク TEL 0274-28-0311





特定非営利活動法人
アジア太平洋地域アディクション研究所

○アパリ東京本部
〒162-0055
東京都新宿区余丁町14-4
AICビル1階
電話：03-5925-8848
FAX：03-5925-8984
Email：info@apari.or.jp

○藤岡ダルク
〒375-0047
群馬県藤岡市上日野2594番地
電話：0274-28-0311
FAX：0274-28-0313
○入寮費：月額13万円+生活費
1日千円（初月のみ14.5万円）
（税別）
*生活保護の方も可能
○入寮条件：依存症から回復
及び自立をしようとしている
本人。男性のみ。
○入寮期間：個人により差が
あります。
<https://fujiokadarc.com/>



2019年7月よりホームページが新しくなりました。ぜひご覧ください。
<https://apari.or.jp>
<https://www.facebook.com/AsiaPacificAddictionResearchInstitute/>

発行責任者：志立玲子
2025年1月1日発行
定価 1部 100円

＜司法サポートのご案内＞

《薬物事犯で逮捕された刑事被告人に対する支援》

薬物犯罪で逮捕されたら刑務所に行くか、再犯防止に向けた何の取り組みもないまま執行猶予の判決を受け、また薬物のある日常に戻るしかなかった日本において、初めて刑罰以外の再犯防止に向けた取り組みを2000年7月からしています。

保釈中の刑事被告人に対する薬物研修プログラム、情状証人出廷、上申書作成、入寮契約、身元引受契約、出所出迎え、法律相談などあらゆるニーズにお応えします。なお、アパリの司法サポートを利用された方の再犯率は10%以下です。保釈中のプログラムの提供、受刑中の身元引受、出所出迎えをしてリハビリ施設につなげるまでをコーディネートします。

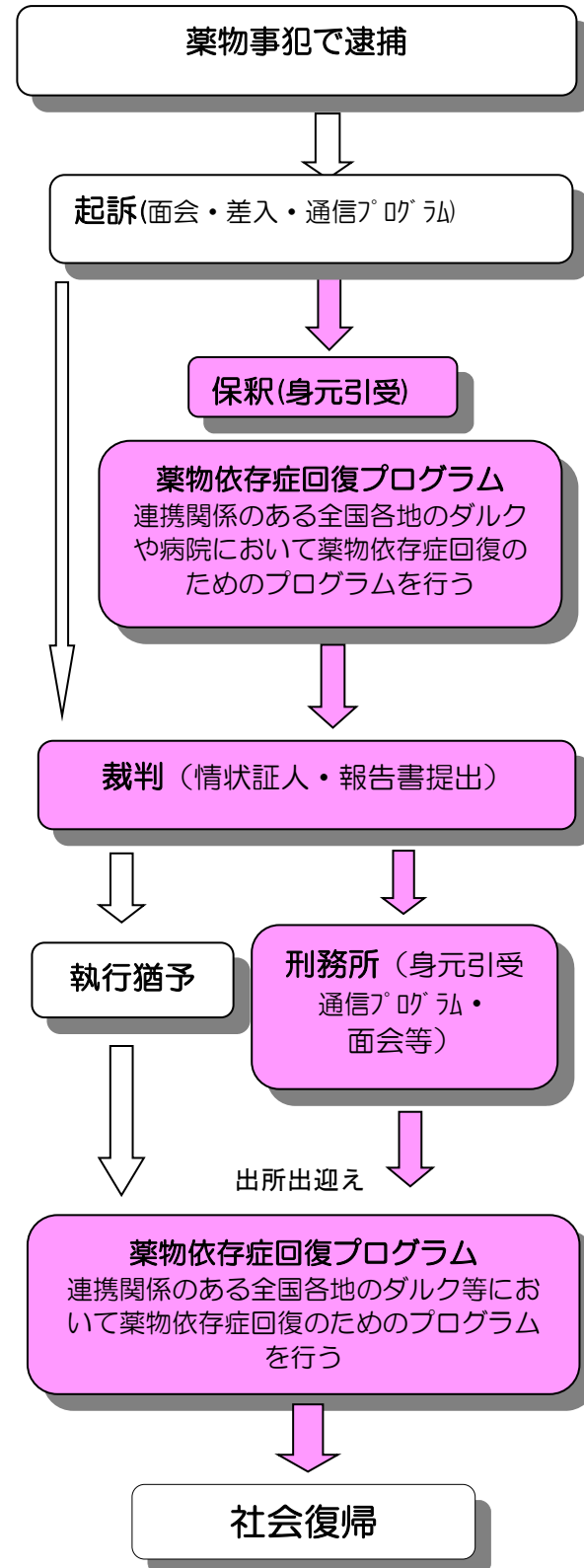
ギャンブルの問題が原因で逮捕された方やクレプトマニアの方の司法サポートも行っています。

[料金：コーディネート費用として20万円(税別)。交通費・宿泊費の実費が別途必要です]

窃盗、横領、詐欺等で逮捕されたご家族の相談もお受けしています。

【お問合せは東京本部まで】

アパリの支援



＜アパリ家族教室スケジュール・東京＞

第1月曜	連続講座	土曜	嗜癮行動家族教室
1/6(月) 13:30～ 18:30～	第2回 薬物の欲求と「きっかけ」「危険な 状況」への対処について	1/11(土) 17:00～	第4回(新) 家族の歴史 ～世代伝播とは～
2/3(月) 13:30～ 18:30～	第3回 薬物依存症者の心にある 2つの考え	2/8(土) 17:00～	第5回(新) 依存症と家族 ～共依存やイネイブリング～
3/3(月) 13:30～ 18:30～	第4回 本人・家族の心の成長－ 自律心・自尊心を伸ばす関わり	3/8(土) 17:00～	第6回(新) 発達障がいと家族 ～アスペルガーとカサンドラ～
4/7(月) 13:30～ 18:30～	第5回 気持ちの回復： 家族自身の気持ちと本人の気持ち の両方を大事にする	4/12(土) 17:00～	第7回(新) 家族の回復とは

【対象】ご家族、支援者等(本人は参加できません)

どちらも全8回の講座ですが、どの回からでも参加できます。

【場所】アパリ東京本部 【参加費】3,000円(2名以上の場合は4,000円)

連続講座 講師：志立玲子(精神保健福祉士・公認心理師)

アシスタント：進藤俊明(青梅アライブ・精神保健福祉士)

嗜癮行動 講師：梅野充(アパリクリニック精神科医師)、志立玲子